

『ボランティアを通して知る社会福祉施設』

(知的ハンディキャップをもつ方の施設を訪問する編)

◎訪問先 = 社会福祉法人太陽福祉協会 日の出太陽の家

基本理念：一人ひとりが太陽に

◎施設紹介 = 日の出太陽の家は知的ハンディキャップをもつ20代～60代、平均年齢46歳の男女30名の利用者さんが園芸作業、陶芸作業、クラフト作成などの職業訓練や基礎体力づくり、生活訓練に励みながら社会参加を目指して暮らしている『知的障害者更生施設』です。

◎所在地 = 西多摩の緑豊かな山間の地（東京都西多摩郡日の出町）

◎施設の特徴 = 障害者への理解を深めてもらいたいと一般に広く門戸を開放し年間を通して学生、勤労者のボランティアを受け入れている。

1、知的障害者と一般の人々が気楽にふれ合える“共生の場”（環境）を設けている。

宿泊施設 通称『武家屋敷』
陶芸教室 日の出陶房 常任講師のいる本格的陶芸教室
自然体験 通称『花咲き山』で自然保護団体・西多摩自然フォーラムと連携

2、ボランティア体験の入門場所として一般社会と施設の融和を目指している。

初心者の勤労者でも気軽に参加できる体験プログラムを準備している。
企業や労働組合、NPOなど多くの団体からの体験希望が増加中

勤労者のボランティア体験がより充実したものになるように事前打ち合わせをし、参加者のニーズにあったプログラムを構成して提案している。
また、勤労者が参加しやすいように活動受け入れ日は土日も対応している。

3、勤労者ボランティアの来訪は成人である利用者にとっても成長の好機である。
来訪者と施設職員/利用者との意見交換会などを設けた武家屋敷に宿泊する一泊2日のプログラムの提供も力をいれている。

◎気軽に参加できる体験ボランティアプログラム

- ・花咲きまつり 毎年5月4日 花咲きまつり実行委員会主催（太陽の家応援団）のおまつり 地域サークル・自治会・学生・後援会・賛同者
- ・施設の行事 餅つき大会、バザー 夏祭り、クリスマス会、感謝の集い etc
- ・クラブ活動参加 お茶クラブ（茶室）陶芸クラブ（日の出陶房）音楽クラブ etc スポーツクラブ（公園で運動）
- ・作業への協力 施設利用者さんと一緒に作業時間を体験する。
花咲き山の整備 花壇の手入れ 陶芸用粘土づくり 椎茸栽培 畑しごと（野菜づくり）

***特に勤労者の作業参加は知的障害者更生施設利用者さんの能力や実際の姿を理解していただける場所と考えています。また、利用者さんは社会人の方々と一緒に働けることをとても喜ばれます。（一般社会人と仕事を通した一体感を持てる時間）**

◎定年後のボランティアの意義と効用

ボランティア活動の性格

ボランティアの定義に明確な定義はない。ボランティア活動の性格として現在一般的にいわれていることは

- 1、自発性=自分の意思で行動、活動する。
- 2、公共性=社会の発展や心豊かな生活作りをめざす活動
- 3、連帯性=支えあって生きる活動
- 4、無償性=代償を期待しないで相手のニーズに応える活動
- 5、市民性=市民（民間）の立場でおこなう。

定年後のボランティアは自己の社会的存在意義の再発見につながる

定年後は、いままで出来なかったことをバリバリやるぞ！！

会社組織の中で仕事の役割をとおして自分の存在意義を確認してきたサラリーマンはその存在価値を定年という区切りで一時的であれ制度的に失ってしまう。



その結果、永年培ってきた価値観の変更を余儀なくされる。



団塊世代に期待されることは今後の共生福祉社会の先駆者になることでもある。



そうか！ **ボランティア**で できることから始めてみよう！



- *どこに行き、何をやったらよいの？
- *今まで培った専門性が通用するの？
- *既存のグループには入りにくいなあ・・・
- *どこを見ても女性が多い、男性はいないのかよ。
- *はずかしいなあ。勇気がいるな・・・
- *多くの人と知り合いたい。
- *会社から離れたのだから社会資源を増やしたい。
- *もっと楽しく自由に生きたい。



そうだ！

シーズ交換会で聞いた日の出太陽の家を訪問してみよう。
きっと何かが見つかる。

自分自身のために自分を生かすという価値観が生まれる。
労働中心の役割生活から少し距離を置き 趣味を生かしたり
人と競争せず共同する、対価を求めない役割生活もありだ。

◎団塊世代定年者が福祉施設で出来ることがあるか。

地域福祉は先発組み定年退職者がすでに取り組んでいる。

高齢者福祉は女性の独壇場である。（男性は生活支援は苦手である）

無償性をなかなか受け入れにくい。（賃金をもらってやると仕事になる）
→ 対等の立場で力を発揮しにくい

* 『日の出太陽の家』で団塊男性のできることはたくさんある。

1、施設利用者と日中活動を通じた交流・社会性を高める支援

父親的存在の役割＝成熟した男性の厳しさと優しさ
社会人の先輩としての存在＝一般社会の大人との接触で社会性を高める
一般的会社の朝礼風景を擬似体験してもらう＝働くということを感じてもらう

2、入所者の学習活動への支援

絵画、書道、陶芸 など趣味活動の指導

3、入所者の社会参加活動への支援

作業作品の販売ルート・発表の場の提供
(例) 陶芸品の展示場の提供、農産物の直売ルート、直接購入、
DNOメンバー会社で即売会など・・・ 作品販売の事業化可能性
農産物の生産支援（農業支援） 早稲田感謝祭への出品
加工食品技術提供

4、施設運営への参加・協力

ホームページ作成支援 技術支援
DNOの持つ情報ネットワーク活用・・・大学や学術・報道機関協力要請
太陽の家ボランティアセンターとの協働・・・団塊ボランティア体験事業化

5、施設に対する金品の寄贈・機材貸与 マンパワーの提供

バザー品の協力（10月実施）
花咲きまつり参加（パフォーマーの派遣や紹介）

6、その他

より良い施設になるための提案やアドバイス

まだまだ、多くのできることが数多くあるとおもいます。



- ◎ 学生時代を含み社会福祉とは殆ど関係になかった団塊世代もいよいよ福祉制度の直接利用者になる日が近づいてきました。
気力体力の失われないうちに、定年後の自分の生き方をよりよいものにするために、何かを始めてみる。それが一寸でも社会的な意味を持っていたらすごく嬉しくなる。どんな些細なボランティア活動でよいとおもいます。